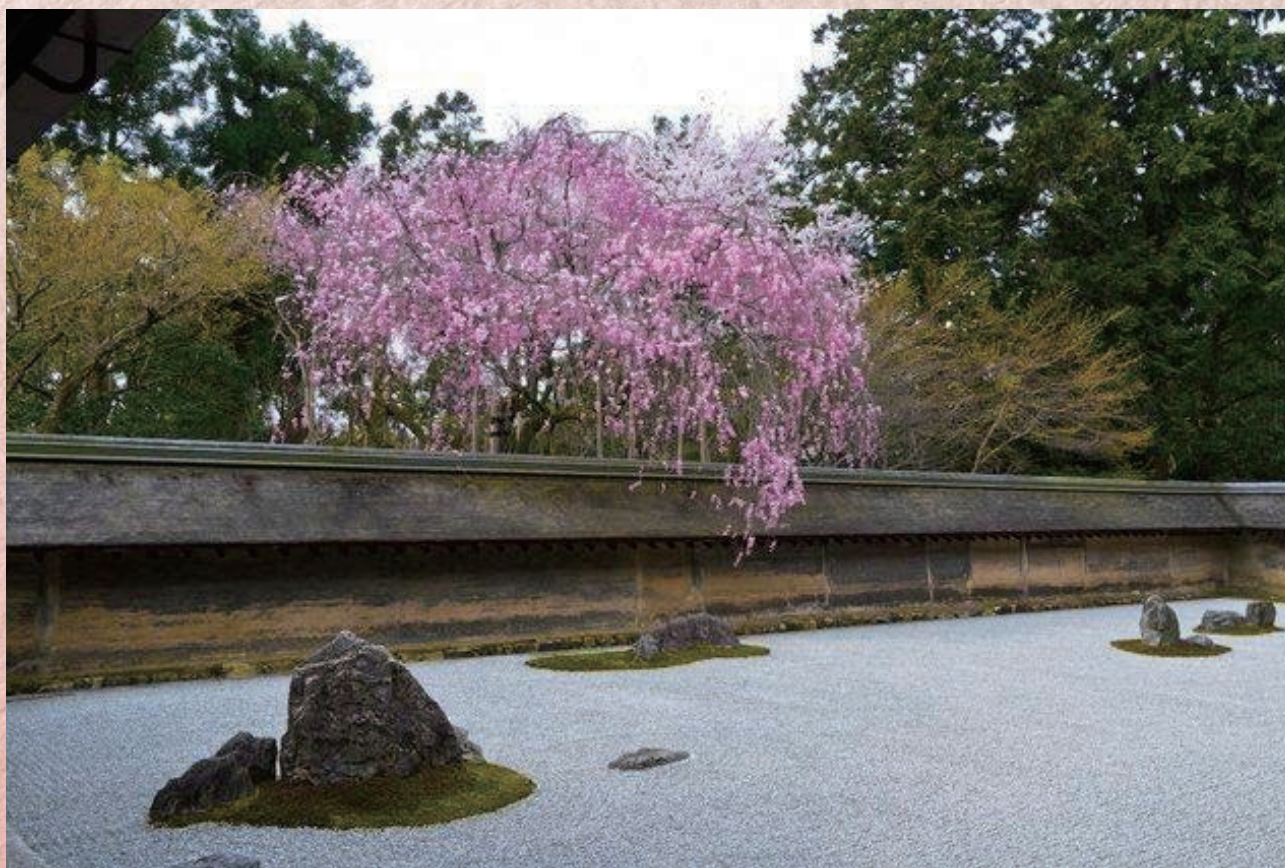




一般社団法人 大日本武徳会

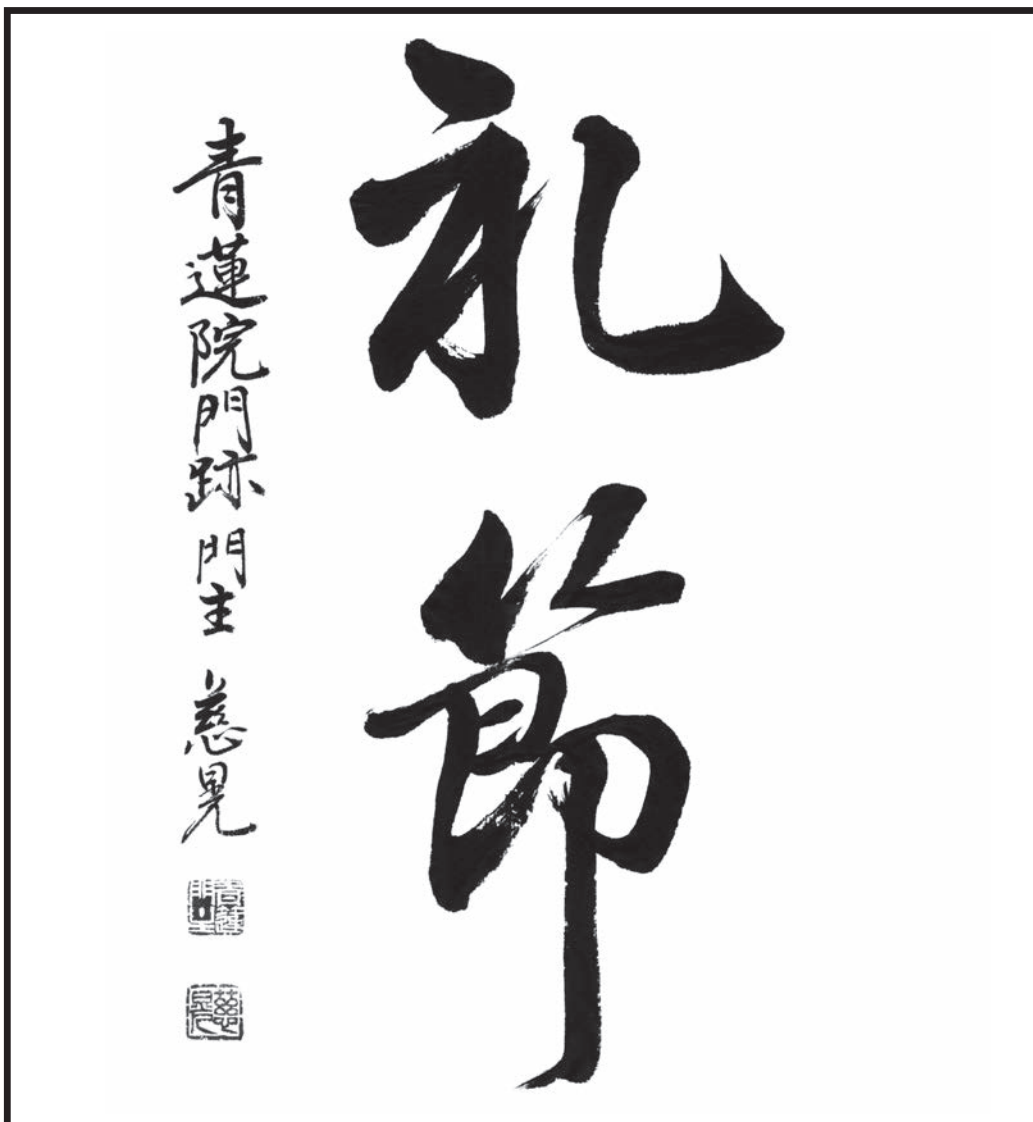
会報 **武徳**

2017.4 春季号





一般社団法人 大日本武徳会



一般社団法人大日本武徳会の未来的展望

代表理事 濱田 鉄心

自然界の有為転変がもたらす予期せぬ変化と同じく、人間の作り出す世界も変化は常に起きている。人が地球上自然界の一部である以上、変化しないことが不自然である。生者必滅の原理は単に変化のプロセスでしかない事も理に適う。人間はマクロの世界とミクロの世界に混沌とした形で存続しており、それは世界に存在するそれぞれの固有のDNAを持った七十三億人の人間が作り出す複雑極まりない膨大なエネルギーの交差でもある。そしてその環境には常に張り詰めた緊張感が漂い、予期せぬ新たな変化が出現する。反面そのような俗人間世界にある矛盾や歪が繰り出すエネルギーがあるからこそさらに新しい変化が要求され生み出される。それは大きな社会変動に対して人間に適応を迫る自然淘汰の力であるかもしれない。しかしある意味ではそのような変化を恐れない人間にとつて逆境は常にひとつのチャンスである事も確かである。前代未聞の敗戦と国土の壊滅的な破壊を克服してわずか七十年間で世界が羨む平和な経済大国を再生させた我が国がそれを証明している。しかしながら現在において大きな技術革新による変化と不確定な社会変動がグローバルなスケールで押し寄せる中、独立立憲国日本の未来が試されている。世界が我々を変えるか、それとも我々が世界を変えるか、もし変えるならばどのように変えるか、また変えさせないとするならばどのように対処するか。その主体性と選択は常に我々にあるという事を忘れてはならない。

武道家は常にその修行の場で守破離の道を歩むと言われている。然り国家も組織もその未完成の完成を目指して同じ道程を歩むのではなからうか。商品開発や生産性や営利を目的とした組織と異なり本会は文化教育的な観点から営利を目的とせず、スポーツ競技を主体としないう純粋な一般社団法人武道団体である。本会は武徳の基本理念を守りつつ、歴史の流れに対応して変化し続ける事が破に通ずるとすれば、多種多様な試みがあつて当然である。無形伝統文化の世界では必然的に極力保守的に物事を進めるのが習わしであるが、その中に斬新な試みも可能であれば取り入れることがさらに伝統の重みと美しさを高める場合があることを忘れてはならない。過去に存在した流派武術の栄枯盛衰の歴史を振り返ってみると、固定観念のみに固執してきた流派は守破離の各領域を超えることが出来なかつた事実がその衰退の要因であつたように思われる。伝統武道の神髄である形稽古は基本中の基本でありその鍛錬の厳しさは類を見ない。その無衣無心の精神性こそが想定された実戦において生死の刹那の分かれ目になることは言うまでもない。個人の危機管理教育が存在しない現代の日本において精神性を重視する伝統武道が貢献できることは多々あるのではないかと考える。伝統武道・武術を通して体験できる多様な教育的価値は自信に満ち溢れた個の確立に繋がり、その人の人格形成に大いに役立つ事は何よりの宝である。それ故に本会は長年の歴史を通じて引き継いで

きた誇りある伝統を守破離の道程で見据えさらに発展させるための努力をしなければならぬ。現在と未来の不透明で予期できない世の動向に惑わされずに伝統的な武徳の哲理と信念を堅忍不拔の精神で貫く事に徹すると共に、自ら適応変化できる度量も切磋琢磨しなければならぬと感じる。

本年度は二月五日に開催された第四回社員総会に始まり、重要な懸案が正会員によって決議承認され本年度の事業計画を推し進める事となった。第八回武道執行専門委員会においては武専委員のリーダーシップと貢献度が本会の発展の大きな鍵となるという事が強調された。四月二十八日の高段者審査は本会の未来の武道エリートを育成していく上に重要な審査会であり多くの候補者が受験することを期待したい。四月二十九日に開催される創立百二十二周年記念第五十五回全国武徳祭は数カ国の国際部参加者も含め誇りある伝統武道大会として開催準備が進められている。それに続いて六月四日には本会の歴史始まって以来の伊勢神宮内宮における古武道奉納演武大会が実施される。伊勢神宮内宮における正式参拝と祈願行事、奉納大会行事には本会のあるべき姿が試される重要な試金石となる。そして八月五日にはフランスのクレルモンフェラン市において世界十数カ国が参加するフランス武徳祭及び国際青少年武徳祭が開催され、クレルモンフェラン市の中央に在する市民パークには大日本武徳会の石碑が設置され桑原桜並木通りが造園される。九月十八日には第二十二回全国青少年武徳祭が開催され、十月一日には第二十五回平安神宮古武道奉納演武大会が額殿において開催されることになっている。十一月十二日には第二回青龍殿国宝不動明王古武道奉納演武大会が予定されている。

さらに本会の後援事業として大阪府支部主催の住吉神社古武道奉納

演武大会が三月二十六日に開催され、六月四日には広島県支部主催の厳島神社古武道奉納演武大会が予定されている。さらに春号と秋号の会報出版事業を含めるとこれら全ては本会が掲げる現在と未来の伝統武道保存継承、青少年育成、国際友好親善、本会の総合的發展に寄与するものと確信する。

総会でも発表されたが青少年育成ファンドの設立が会員全員の力で達成されればその奨学金はさらに未来の子供たちへの貴重なチャンスを与えることが出来る重要な手段となるに違いない。そして武徳会館の設立は会員の総力でもって作り上げることが出来る本会の未来的夢でもある。過去七十数年間、仮住まいを点々としてきた本会にとつてこれを実現する事は対外的にも必要ではなからうか。

本会は常に襲古還新の持つ意義を念頭に入れながら未来志向で前進しなければならぬと考える。今こそ自ら時代に適応した変化を促していくことが必要ではなからうか。本当のレガシーは過去の遺産だけにあるのではなく未来に何を残せるかということが大きな命題であると思われる。そのためには我々が現在できる事、我々であるから出来る事、本会が出来る事の全てを着実に実践することが未来への新しいレガシー構築につながると思われる。

これらの目的を達成するための最重要課題は、会員全員が本会の目指すことを理解し、いかに精力的に協力していくかにかかっている。共通の志を大切にし、一丸となって心願成就に向かって歩みを揃えることに全力を尽くしたい。

最後に、この書面をお借りして本会の関係各位に厚くお礼を申し上げます。

アメリカ合衆国・バージニア・ビーチの桜並木

一般社団法人大日本武徳会の素晴らしい見事な桜並木は、代表理事濱田鉄心先生の赤鉄燃える如き情熱信念の絶える事のない永年に渡る継続の賜物です。

感謝 副総裁 桑原兵充



一般社団法人大日本武徳会桜並木・クワハラプロムナード

Bedgebury

National Pinetum

2013年8月8日・日英同盟友好親善111周年記念英国武徳祭を記念して植樹された、一般社団法人大日本武徳会の見事な桜並木の冬の景観を英国支部代表・ロジャーペイン先生から恵送頂きました。皆様に宜しくとのことです。桜の木は年々一本増殖されます。

この桜並木の実現は、世界平和と青少年の健全な育成に献身的な情熱を持って望まれた国際統括部長濱田鉄心先生の成果です。

感謝 副総裁 桑原兵充



紅葉が見事な一般社団法人大日本武徳会・クワハラプロムナードの景観



拝啓 新春、武徳会の皆様、益々の御健勝お慶び申し上げます。

「武士の心」の題で書く様にとのこと。浅学の小生・・・困ります。

「正月や死出の旅路の一里塚 目出たくもあり目出たくもなし」小生九十二歳、まさに一里塚です。

一里塚を横に見て、頑張ってみましょう。

小生は英信流。他の流派のことは知りません。

前に座っている相手（立っている場合も）が刀に手をかけ、鯉口を切りました。相手が鯉口を切ると同時に相手を斬り倒します。これが技です。稽古です。

この技を身につけていれば、いつの場合も悠然としていられます。少し秘伝を申しますと、原動力は手ではありません。ヒジです。

居合の稽古とは、この様な技も稽古するのです。刀を振り回すだけが稽古ではありません。

腰の構え（居合腰）すら、知らない方が多々あります。斬るのは物打ち、自然な円を描いて斬り下ろします。

自然に相手の下腹あたりで剣先が離れます。血振るい納刀です。

感謝根源尊道統

以直心従自然理法

根源に感謝し道統を尊び

直なおな心で自然の理法にしたがう

これが心です。

了



第三回社員総会に於いて（平成二十八年二月八日）

総裁 東伏見慈晃祝下

代表 濱田鉄心先生より思い掛けない武徳会最高の特別功労賞を授与され、感謝・感激に打ちふるえました。又立命館大学グリークラブ

のイメージング・グレースの合唱のクリスチャンへの細心の配慮には唯々涙するばかりでした。

顧みますと昭和十八年（一九四三年）九月、大日本武徳会大阪府支部長野支所が結成され（写真）、私は三段に合格して、勇躍、出征しました。但し、懐中にはクリスチャンとして聖書を忘れませんでした。私は中学二年で（一九三七年一月）受洗して、「神は真実にいませば、我らの罪を赦し、凡ての不義と戦わせ、潔めたまわん」を座右の銘としました。

『しゅわれをあいす、しゅは つよければ われよわくとも おそれはあらじ、わがしゅイエスわれをあいす』とうたつて成長しました。従つて、青春時代は神道や現人神天皇あらひとがみの信者には攻撃されました。しかし「忍」の一字でした。

私は三月十九日が満九十六歳になり、「晩年こそ最高の好機」と信じて、「公」を忘れた日本人へ、「楠公（楠木正成と正行）をテーマに河内長野市などが日本遺産に申請している楠公復活運動に少しでも役立ちたいと念願しています。

私の幼名は楠木正勝で本籍千早の楠の本家で正成の孫の名をもらつて大きくなりました。

最後はクリスチャンとして全うしたく、その瞬間まで「武士もののふの心」を失わないようにしたいと願っています



昭和18年9月 河内長野武徳会 指導者一同
大日本武徳会大阪府支部河内長野支所結成以来剣道指導補として協力された方々が昇段試験に合格した記念写真
思い出の一枚

武德

正勝

辻野 正勝 先生 書



一般社団法人 大日本武徳会

第四回定時社員総会 及び
第八回武道執行専門委員会

開催日…平成二十九年二月五日（日）

場 所…ホテル平安の森京都

第四回定時社員総会



第八回武道執行専門委員会



懇親会



監事に就任させて頂いて

至誠館 藤井 正巳

平成二十九年二月五日（日）、京都・平安の森ホテル・比叡の間に於いて第四回定時社員総会が開催されました。

社員総会において出席者全員の承認をいただき監事に就任となり、身の引き締まる思いであります。

これからは、道場の事も含めて、誠心誠意武徳会のため、会員皆様方のため努力してまいります。

監事の仕事は、大会の運営や定例理事会、監査委員会、等の参加並びに諸資料の点検考察など様々な諸問題に対処せねばならないと伺っております。

私自身勉強し、代表理事、副総裁、他の理事の方々にお教え願ひ職務を全うしたいと考えております。

これからは、武徳会のため、代表理事の言われる五つの目標に向かって邁進したいと考えております。

○伝統武道の保存継承 ○武徳会の活動の発展 ○国際的な発展
○青少年の育成 ○財政基盤の確立

課題は、多難であります。最大限努力してまいります。

今まで数々の助言ご指導を賜りました各理事、監事の先生方ならびに代表理事、副総裁の懇切丁寧なご教示に感謝するとともに、これか

らもご指導ご鞭撻そしてご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

監事就任のご挨拶

監事 中田 浩大

私は、平成二十九年二月五日の総会において、監事就任の承認を頂きました。歴史ある大日本武徳会の役員末席を汚すことになり、緊張で頭がいっぱいあります。しかし、引き受けた以上は一生懸命のため、会員のため尽くすことをお誓い申し上げます。

私は、小松市の古武道道場「こぼと修童館」で修行をし、主に小学生を対象に居合道を教えています。五十年まえに祖父が青少年育成を目的に道場を開いたのが始まりですが、初めの内は、小学生だけで七十人いたのが今では四十人を切る半減の状態でだんだん人気がなくなっています。多様化の社会では古くさいに居合道道場の入門はなかなか至難なことです。しかし、小学六年間を「こぼと修童館」で卒業した子どもの感想文を見ると、本人も親も、何もわからない基礎の世代に、日本文化の居合道の世界で規律ある静と動を体現出来たことは無形の財産となりました。と具体的な例を上げて記してありました。大日本武徳会全体でも会員数の減少、特に青少年の入会が少ないことが際立っています。

私は、自分の道場を立て直して、ひいては会の青少年育成に力を注

ぎます。

「新役員として」

上村 雅彦

一般社団法人大日本武徳会の先生方、会員の皆様方、平素の御厚情に深く御礼申し上げます。

この度、私は一般社団法人大日本武徳会の新役員として理事に就任させて頂く事になりました。

私を御推挙いただきました先生方に心から感謝致しますとともに、この場をお借りしまして御礼申し上げます。本当にありがとうございます。御座います。

これまで十分な働きが出来ておらず、誠に申し訳御座いませんが、「一般社団法人大日本武徳会」が今後益々の発展を遂げる為の一助となれますように一層の努力をして精進してまいりますので、どうか宜しく御願致します。

本会で成さねばならない重要なことは、伝統武道・武術を後世に保存継承する事と教えて頂いております。

そして青少年の育成。

伝統武道の「技」と「心」を継承する為には今の青少年達に一日でも早く武道の教えを受けていただき、若い方々がまた未来へ変わらぬ

伝承を遂げていく為に出きるだけ多くの少年少女達に心技の伝達が大切です。

武道の修得には長い年月と本気の心が必要であり、私自身もまだまだ道半ばであります。

日々厳しい修練を本当に長い年月をかけて修められ、伝統武道を変わらず後世に受け継がれて行かれますように、未熟ながらも私も今後の人生をかけて働かせて頂く所存です。

今後とも宜しくお願い致します。

本当にありがとうございます。

理事に就任して

渡邊 佳代子

この度、理事に就任させて頂くことになりました。

子供たちに古武道を始めたきっかけを聞くと、刀に興味がある。歴史が好き。かつこいい。と話してくれます。幼い頃から日本の伝統武道に興味を抱いてくれる事がとても嬉しく思います。

古武道を学び続け、年齢や時間を重ねなければ武道の真髄を理解できない事があることを知りました。それらは、自分の成長に年月がかかることと同じだと思います。どんなに背伸びをしても、同じ景色を

見ても感じることに違いがあります。子供の目線が大人と同じ高さにはなりません。未熟であれば自分の成長を過大評価してしまいます。そうしてしまうと自分の成長を止まらせてしまいます。同じように自分を過大評価するならば、もっと大きな自分になれると信じて今に満足しないでいることだと思います。どんなに頑張っても自分よりも先に生まれてきた人の年齢と生きている時間の経験を追い越す事はできません。私が武道を続けている中で仕事や生活で役立っていること、これまで多くの先生方に教えていただいたことを未来を担う子供達に言い継ぎ語り継いでまいります。

未熟ではありますが、何事にも精一杯の力で取り組み、これからも武道を継続してきて良かったと日々感じて生きていきたいと思えます。どうぞご指導・ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。





第二十四回

平安神宮古武道奉納演武大会

日時…平成二十八年十月二十四日(日)

場所…平安神宮「額殿」

主催…一般社団法人 大日本武徳会

第二十四回 平安神宮古武道奉納演武大会報告

至誠館 藤井 正巳

平成二十八年十月十六日（日）第二十四回古武道奉納演武大会が平安神宮額殿にて開催されました。

秋晴れの素晴らしい天気の下最高の条件にて執り行われました。

午前九時半すぎには、日本の先生方が集まり、フランスの先生方も加わり、平安神宮の額殿の準備に取り掛かり、作業を無事に終えました。

午後十二時十分より神前に参加者が整列し、前の祈禱が終わるのを待ち、平安神宮拝殿にて祈禱、玉串奉納等が執り行われました。

平安神宮額殿に戻り、検証委員等の時間割、役割等の説明があり、続いて大会が開催されました。

「祓の儀」は教士七段 渡邊佳代子先生のすばらしい演武で始まり、国際部濱田鉄心代表理事による卓越した空手道の演武、さらに戸山流 神伝流、夢想神伝流、二天一流、一心無双流、無双直伝英信流、国際部合気道等の先生方の見事な演武が続きました。

途中の進行状況は、非常に順調で、各道場の先生方が制限時間をきちんと守り大変スムーズにながれました。

写真撮影禁止の看板があり、一部禁止が行き届かない点もありましたが、全体としてうまく機能しておりました。

また、移動警備等においても、トラブル等はなく、無事責務を果た

しました。

一部演武中にケガをされた先生もおられました。救護医師の適切な対応で大事には至りませんでした。

「納の儀」では錬士六段 小林信之先生の気迫のこもった迫真の演武で第二十四回平安神宮古武道奉納演武大会は、午後三時三十分は無事終了致しました。

今大会は、前年に比べ反省点は残りますが、はるかに有意義な大会であり、多くの事柄において改善がなされておりました。

おわりに、大会の準備、進行等に携われた先生がたのご協力に深く感謝し、一般社団法人大日本武徳会の今後さらなる発展と、各道場流派の先生方の栄達を祈念申し上げます。

御礼の御挨拶

第24回平安神宮古武道奉納演武大会も皆様
の多大なる御協力と御支援によりお陰様で無事
盛大裡に終了致しました。

ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

ご協賛及びお祝金をいただいた 個人及び団体（順不同）

御 芳 名	金額(円)	御 芳 名	金額(円)
濱田 鉄心 様	30,000	山本 楠城 様	10,000
藤井 正巳 様	20,000	宮園 國男 様	10,000
竹田 豊 様	10,000	神 和 会 様	10,000
石本 一平 様	10,000	川村 八郎 様	10,000
中田 武太 様	10,000		





支部だより

平成二十八年

大阪府支部武道研修会開催さる

大阪府支部 村田 雅人

一般社団法人大日本武徳会大阪府支部武道研修会が平成二十八年十一月二十日（日）に大阪、住吉大社境内住吉武道館、剣道場、柔道場にて開催されました。

住吉武道館道場の清澄なる雰囲気の中、まず、村田雅人支部長の開会の挨拶に始まり、大日本武徳会最高顧問 辻野正勝先生の心温まるご祝辞ならびにご高齢を感じさせない張りのあるお声で楠公漢詩の詠いを賜りました。また、いつもながらご高齢にかかわらず毎回ご参加を頂いております大日本武徳会副総裁桑原兵充先生の心のこもったご祝辞を頂きました。辻野正勝先生のごあいさつの中にございました、武道をすれば長生きできるんです、のお言葉を体现されているお二方

でございました。次に住吉武道館新館長、東郷信行先生より温かい励ましのご祝辞を頂きました。また、本部を兼ねて山本楠城先生のご参加を頂いております。更に、河内長野市剣道連盟代表 川頭隆義先生のご臨席も頂きました。なお、今回は、大阪府支部による昇段審査を行いました。以前にも行いましたが、昇段審査も大阪府支部の活動活性化の一環として会員の積極的参加を期待しております。

さて、演武は村田雅人支部長の英信流杖いの儀に始まり、桑原兵充先生、高島伸幸先生による心伝流柔術模範演武が為されました。特に、桑原兵充先生のご高齢を感じさせない入神の妙技に会場水を打った如く静まりかえり、誠に襟を正す思いでありました。また、ご一門により心伝流柔術の見事な演武が粛々と披露されました。続いて居合剣術の部として、村田雅人一門による無双直伝英信流居合演武がなされました。次に山本楠城先生の虚心流居合剣法ならびに山本勇先生、杉本安隆先生による立派な組太刀が披露され、さらに、森内一蔵先生による神伝円心流据物斬剣法神事、試斬ならびにご一門による錬度の高い剣法が披露されました。いつも被いによる浄化に心より感謝しております。続いて、今回初めての特別参加でございます陽武館市村章先生による夢想神伝流居合演武が披露されました。誠に、きびきびし

た居合で元これ同根、心嬉しく拝見させていただきました。次に、尾ノ上克己先生による無双直伝英信流居合が立派に演武されました。また、神田派虚心流居合が佐野晃一先生により披露されました。全体に大きく柔らかで立派な居合でした。続いて、誠慧塾樋口友視先生ご一門により無双直伝英信流演武がなされました。錬度高く大変結構な居合でございました。一般演武のしめとして太田淳一先生修武会一門による居合剣術が披露されました。いつも多くの剣士のご参加と演武二刀も加えて誠に壮観で華を添えていただいております。演武も錬度高く、若い方々も加え今後の発展が期待されます。

さて、今回は無双直伝英信流居合の昇段審査を柔道場にて行いました。審査員は支部評議員 尾ノ上克己先生、同 佐野晃一先生にお願いし、総合主査を支部長 村田雅人といたしました。審査結果は全員合格の判定であり受審者岸川康子氏合格といたしました。

最後に、山本楠城先生による立派な納めの儀により武道研修会を終了致しました。

なお、今回の参加者数は四十六名（内、青少年二名）でございました。一般社団法人大日本武徳会の発展と各位の武徳に栄光あらんことを祈念申し上げます。乱文ご容赦下さい。



団体道場紹介



「理法塾」

代表者 松村 則夫

「理法塾」は、長年全日本剣道連盟で居合を続けてこられ、もつと直伝英信流を極めたいという思いから、一色克己先生が自由に追求し発表できる場として、平成十八年に弟子たちと一緒に入会されました。一色克己先生が団体名を「感謝根源尊道統以直心自然理法」根源に感謝し道統を尊び素直な心で自然の理法に従うと云う言葉から命名されました。

昔からたくさんあつた居合の形を整理されて、今の直伝英信流の下となる第十七代大江正路先生の教えに従い、本当の居合を継承すべく修練しております。

一色克己先生曰く、最近の直伝英信流は大江正路先生が内容を整備し無双直伝英信流の名の下に体系を整え、教えを伝えられたにも拘らず、技法そのものが乱れてきたように思う。もう一度大江正路先生の

居合に戻り修練すべきである。

今の居合には目の前の敵というものが見えていない。理法を紐解きもせず形だけを追求している。刀の扱い方、立ち振る舞い等にもすべて理法というものがあから、それに従って修練すべきである。

英信流に於いて「前」の技は基本となるべき技で居合の技全てに通じており、十二分に稽古すべきで、目の前の敵を意識し一拍子で敵を倒す気合と動作が肝要である。一人稽古も良いが、人は柔な動作に馴染み易い。間違つた動作を的確に修正して下さる先生がいればこそ、厳しい稽古も負担にならない。そのような指導をして下さる一色克己先生の弟子であることを誇りに思います。

理法塾は毎週土曜日午後六時～九時と月二回日曜日の午後二時～五時、近くの小学校のコミュニティホールを借りて三時間びつしりと合同稽古を行っております。

四月には武徳祭古武道演武、六月には厳島神社古武道演武、十月には平安神宮古武道演武と年三回の演武大会を楽しみに稽古に励んでいます。

心月無想柳流柔術

古武道甲武館

川村 八朗

心月無想柳流柔術・古武道甲武館の稽古場所は、尼崎市と西宮市を

分ける武庫川沿いの西宮市側に位置する甲武体育館内です。甲武体育館において稽古するようになってから三十数年が経ちます。

当流派の流祖は岩永源之丞正光（のち一柳斎と号す）です。

肥前国伊万里の郷士の長男として生まれ父について剣術、柔術を修行し、武者修行に出、宝暦二年帰郷し門人の育成に努めた。宝暦三年、各流の長所を取り入れ、新流を創始、心月無想柳流と称した。

初代から八代を経て、私は九代岩永源一宗家に師事し免許皆伝を授かりました。現在は柔術を主体としているので柳流柔術と称していますが、総合武術ですので剣術、棒術、小薙刀も稽古はします。柳流柔術の特徴としては当て身を多く用います。

稽古は柳流に必要な受け身、当て身そのほか歩法、重心移動等の基本動作から入ります。最初は重心移動が難しく上手く行かず手古摺る仕儀になりますが、数をこなすほかありません。

日本の伝統武術は型から入ることは周知のとおりですが、大切な型の中の本質を観ることが肝心です。日本伝統武術が連続と受け継がれてきたことは、流派の普遍的な型から生まれたことによるものです。崩しがあり、捌きがあり移動の中で崩し捌くことは勿論であります。道場の中だけが修行の場と思わず、日常の中で武術を活かすことを常に考えて行動することを伝えています。

危機意識は自身で養い常に先を観る事が肝要と考えています。習い覚えるということは基本が大事で型の重要性を深く認識することが大切です。

柳流柔術允可は初伝から中伝、目録、奥伝、免許皆伝と進みますが、ほとんどが口伝による指導です。

技で悩むことがあれば悩み、そのためには基本に回帰する事だと教え、基本に立ち返り初伝から稽古する事を勧めています。不要な所に

無駄な力を遣わず、自分自身に技の是非を問いかけ、勿論、指導者には是非を問うことが必要です。

心月無想柳流柔術・古武道甲武館の稽古日は、基本的には毎週日曜日、午前九時から十一時までです。然しながら昨今、体育館の使用頻度が高く、思うように稽古場所がとれずこの限りではありませんが、門下生一同、自身の稽古怠ることなく意気込みを持って励んでいます。

